

# 全国保健師長会 栃木県支部だより

発行  
全国保健師長会  
栃木県支部  
令和3年8月吉日  
第40号



## 支部長あいさつ

栃木県支部長 高橋 良子 (矢板健康福祉センター)

日頃より全国保健師長会栃木県支部活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

はじめに本年2月の足利市内の林野火災においては、深刻な健康被害には至らなかったものの、不安を抱える市民の気持ちに寄り添い、近隣住民の健康調査や避難所支援に対応された保健師諸姉の皆様のご御苦労には深く敬意を表します。

更に、3月には鳥インフルエンザ、4月には豚熱が県内で発生し、昼夜を問わず対応を求められ、健康危機管理に徹して参りました。

また会員の皆様におかれましては、依然として猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症につきまして、不安や戸惑いの中、住民に寄り添いながら保健師活動に尽力されていることに感謝申し上げます。当支部においても今年1月に研修会を企画いたしました。緊急事態宣言が発出され、残念ながら中止を余儀なくされました。

新年度、市町では、新型コロナワクチン接種に細心の注意を払いながら対応を進めています。また県では、市町にも協力いただき本庁はじめ出先機関で引き続き機動調査チームとして、広域健康福祉センターでの積極的疫学調査等を進めるほか、軽症者宿泊療養施設に従事するなど、全県一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいるところです。

このように、私たち保健師は、一つ一つの課題に対し本当に真摯に向き合っていると皆さんも感じているのではないのでしょうか。

さて、今年度の北関東・甲信越ブロック研修会は、山梨県が当番県となりました。そして先日書面開催された支部長会で、昨年同様に集合形式での開催はせず、先進事例集の作成をすることになりました。今後、当支部役員会で提出事例について検討して参りたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

また、全国保健師長会代議員総会は11月27日(土)に福島県福島市で予定されております。開催方法については、後日あらためて連絡がある予定です。

皆様方におかれましては、どうかくれぐれもご自愛ください。そして今後も統括的役割を果たす保健師として自身の成長を目指し、保健事業の推進をしつつ、なお一層の後輩育成にも力を発揮いただけますよう宜しくお願いいたします。

今後も皆様のご鞭撻、ご協力をお願いいたします。



## コロナ禍における地域保健活動について考える

栃木県保健福祉部保健福祉課兼感染症対策課 主幹 川村 和枝

会員の皆様こんにちは。栃木県保健福祉部 保健福祉課の川村です。

今回、私に与えられたテーマは「コロナ禍における地域保健活動について」です。何を書こうか迷いましたが、日々の活動の中で感じていることから、今後の保健活動について考えていきたいと思います。

私は、昨年5月から軽症者宿泊療養施設の運営に携わらせていただいております。開設当初は、新型コロナウイルスに感染した方々の健康観察と生活支援を行うことから、病状の変化に対応するための知識の習得や、従事するスタッフの感染予防に関し、日々頭を悩ませておりました。同じく運営に当たる保健師等4名と毎日遅くまで意見を交わしながら、何とか対応してきました。

業務が軌道に乗ってくると、今度は日本語の話せない外国人の方々とのコミュニケーションをどうするかが課題になりました。ポケットークなどのコミュニケーションツールを活用して、電話でやりとりをするのですが、なかなかうまくいかず四苦八苦。結局、防護具を着用して、身振り手振りでコミュニケーションを図るのが効率的だという結果になりました。

次なる課題は、人材確保と育成でした。開設当初は、保健師4名と行政職1名が交代で施設責任者と生活支援班をまとめるロジの役割を担っておりました。しかし3ヶ月が経つと5人で回すことが難しくなり、8月に3名の保健師が加わることになりました。昨年12月の第3波の頃になると、疲れが見え始め不調を訴える保健師が増えてきました。(はっきり言って、よく12月まで持ったというのが本音です…)

それに加えて、感染者が急増したこともあり、新たな施設を3カ所設置することになり、人材を確保する必要が出てきました。この時は、保健師の確保が難しかったため、一般の行政職にも加わってもらい運営していくことになりました。一般の行政職の方々は、清潔不潔の観念がある訳ではないため、事前の研修及び現地研修を重ねながら育成していきました。

そして年度が変わった現在。感染数が激減することもなくジワジワと陽性者が発生しており、引き続き施設運営を行っております。その中で気づいたことは、入所者の体力(筋力)低下とメンタル面の不調です。50歳以上の方は、体力低下が著しく、車に乗る際もフラつくようなこともあり、また、若い人では人と会うのが怖いと訴える者もいます。この課題をいかに解決するかが課題です。

ここまで宿泊療養施設における現状と課題を報告させていただきましたが、これらの状況は、地域においても同様なのではないでしょうか。コロナ禍による新たな生活様式が定着する中で、健康の二次被害が顕在化しています。

「児童虐待やDVの件数増加」「高齢者の体力低下」「10代の妊娠相談の増加」「がん等の発見の遅れ」等々。

これらの二次被害は、今は大きな問題ではないかもしれませんが、数年後には社会問題となるかもしれません。

私たち保健師は、目前の健康課題に取り組むことも重要ですが、将来の課題を予測して予防的活動を行うことも必要です。乳幼児健診、特定健康診査、特定疾患の申請受付、精神保健福祉活動、健康づくり等、これまで日常的に行ってきた活動の意義をもう一度振り返り、その重要性を再認識することが今求められているのではないのでしょうか。

更に、施設運営に携わることで、人材育成の重要性を痛感しています。県も市町も新型コロナウイルス感染症対策で多忙を極めています。保健師の人材育成もままならない状況とは思いますが、しかし、今だからこそ学べることはたくさんあります。それを言葉で伝えること、意識させるだけでも人材育成につながるのではないのでしょうか。

当会の研修会もなかなか開催できない状況にありますが、ワクチン接種が進み感染者が激減するであろう今年度末には、皆様と意見交換できることを願っております。

### 〈全国保健師長会加入状況〉

	県(人)	市町(人)	計(人)
平成27年度	51	94	145
平成28年度	51	102	153
平成29年度	49	112	161
平成30年度	47	112	159
令和1年度	44	108	152
令和2年度	45	109	154
令和3年度	41	111	153

※ 皆様のご入会をお待ちしております。

### 〈令和3年度役員紹介〉

職名	氏名(所属)
支部長	継 高橋良子(矢板健康福祉センター)
副支部長	継 伊藤洋子(真岡市役所)
副支部長	新 菊地 幹(県西健康福祉センター)
書記	継 鈴木悦子(障害者総合相談所)
会計	新 根本カヨ(那須塩原市役所)
監事	継 杉山佐千子(宇都宮市役所)
本部広報委員	新 鈴木祐美(障害福祉課)
本部調査研究委員	継 福原 円(小山市役所)
健やか親子特別委員	継 星野典子(こども政策課)
*北関東・甲信越 ブロック理事	金子 敬子(健康増進課)

\*令和4年度栃木県が開催県となります。

8月に入り、猛暑の日が続いています。

栃木県民とはいえ、ゴロゴロピカートの雷様(らいさま)には驚かされますね。

オリンピックが始まり、日本選手の立ち向かう姿、活躍に感動です!

猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症への対応など、奮闘の日々が続いていますが、どうぞ夏バテなどしないようご自愛ください。

